

交換留学帰国報告書

記入 | 2026 年 7 月
所属 & 学年 | 人文学研究科・M2
卒業予定 | 2027 年 3 月

留学先大学	国立台湾大学
留学先国	台湾
留学期間	約 10 ヶ月 （修士 2 年次に留学）
留学開始－終了	2025 年 8 月 24 日 － 2026 年 6 月 23 日

A. 留学に至った経緯や留学準備について

- ①留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

台湾をフィールドに研究をしているため、修士論文の執筆にあたり、現地の大学で専門科目を学びながら調査を行いたいと考え、交換留学を決めた。台湾大学には、人類学部があり、自分の研究テーマと関連する分野の授業が開講されているほか、台湾や東南アジアを専門とした教授が教鞭をとっていることから、現地の研究者や学生の問題意識ないし研究動向を吸収することができる機会になると考えたから。

- ②留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

研究を進めていく上で、フィールドでの現地の研究者や調査対象者とのネットワーク、語学力、専門分野の見識が不足していると思い、留学という環境で、大学で専門科目を学び、語学力を身につけるだけでなく、現地での調査経験を積み、人脈づくりに努めたいと考えたから。

- ③留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
韓国	M2	研究発表 4 日間
台湾	学部 3 年	留学 1 セメスター

- ④実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

応募時期の半年前ぐらいから、留学の情報収集や語学の勉強を始めた。

- ⑤海外留学室での相談内容、参考になったことなどを教えてください。

志望動機を作成する際、志望理由書についてアドバイスをいただいたことで、留学中に取り組みたい事項がより明確になった。

B. 留学前の語学対策や単位などについて

- ①留学前の語学対策、TOEFL などの受験回数などについて教えてください。

TOCFL band B 1 回

- ②単位取得、単位互換、教職履修などに関するアドバイスをお願いします。

C. 授業や勉強について

- ①留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG 2022 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えて下さい。

通年

国際生華語(一) PTCSL 7908 146 U9080、国際生華語(二) PTCSL 7909 146 U9090
プレイスメントテストによってクラス分けがされる。スピーキング練習がメインだった。
単語小テスト、中間・期末テスト(スピーキング、プレゼン、筆記)がある。3 コマ(1 コマ
50 分)・週 2 回。

前期

策展與人類學知識的應用 Anth 5135 125 U3270

人類学部・研究所の授業。人類学と博物館展示について学ぶ。人類学関連の文献に関する
個人発表と議論、レポート課題、博物館でのキュレーション経験をもつ人類学者や学芸員
の特別講演、国立台湾博物館でのガイドによるワークショップなどとたくさんの内容があ
った。期末レポートでは、実際に見学した台湾の博物館展示分析や、授業中のプレゼンタ
ーのテーマに関連する人類学的分析があり、グループプロジェクトでは、展示企画を行っ
た。3 コマ。

国際生華語閱讀與寫作 PTCSL 5011 146 U9390

留学生用の中国語の作文・読解がメインの授業。毎週、作文の課題があった。2 コマ。

日文翻譯二上 JpnL 3009 107 30421

中国語の記事や昔話などを日本語に翻訳する授業。グループディスカッションをして適切
な翻訳を作成していく。台湾人学生たちとの話し合いは中国語で行なわれる。期末テスト
有。2 コマ。

後期

巴里島甘美朗樂舞文化與實踐(克比亞) Music 5106 144 U1330

音楽学研究所の授業。インドネシアのガムランの演奏、音楽、文化、歴史的背景を学ぶ。
最終演奏発表がある。3 コマ。

語言與文化：以南島語族為基礎 Anth 7143 125 M3420

人類学研究所の授業。台湾のオーストロネシア語族の言語と文化について体系的に学ぶ。
文献の輪読発表や、期末発表、期末レポートがあった。2 コマ。

聴講科目

International Migration Soc 5001 325 U5900

社会学部の英語開講科目。履修生のほとんどが留学生だった。移民研究に関する主要な概
念、理論、政策論について学ぶ。3 コマ。

原住民與博物館：變動的觀念、關係與實作 Anth 5122 125 U3150

人類学部・研究所の授業。博物館と先住民の関係について学ぶ。博物館における遺物の収
集に関する概念や実践、課題などの文献が扱われる。3 コマ。

台灣民俗文化 Anth 4013 105 42020

人類学部の授業。台湾の祭り、風習、儀礼、風水などについて学ぶ。3 コマ。

- ②授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫を教えてください。

受講した講義のほとんどが中国語開講の科目を選択したため、聞き取りが大変だった。事前に授業のレジュメなどが公開されるものは、目を通しておき、授業後に不明点があれば先生、近くの学生に尋ねるようにしていた。特に、TAのような学生に、授業のサポートをしていただいた。高学年向け、大学院の専門科目は、授業中に扱う文献や課題量がとにかく多かった。できる限り早めに取り掛かるようにしてはいたが、テスト期間は他の授業の課題が重なってくるため、ひたすら課題に取り組むしかなかった。

- ③学習面で困ったことはありましたか。どのように解決しましたか。

台湾大学に限らず台湾の大学全般は、授業時間がとても長く、専門科目の講義だと1つの講義で、3コマ約3時間(1コマ50分)にわたることもある。そのため、講義内容や課題量が多く、それらをこなした上で、自身の論文作成や研究活動を行うことが体力的・精神的に大変だった。

D. 大学生活について教えてください。

- ①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

自由闊達な校風で、活気あふれる環境。学生たちは、授業やグループワークを通じて活発な議論をしている。世界各国から留学生が集まっており、開放的でリベラルな気風が感じられる。また、台北の中心部にありながらも、大学内は緑豊かで、落ち着いた環境で留学生を送ることができる。

- ②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

大学内ではwifiが使用できる。学習の施設は大変充実しており、図書館、博物館がある。大学周辺は、学生街のようになっており、飲食店や夜市、ドラックストアなどが揃っている。

- ③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか。

授業では、グループワークが多く、同じグループになった台湾人学生、留学生たちと交流を深めた。国際生華語(留学生の中文の授業)では、スピーキングの練習の際に意見交換をする中で、自然と様々な国の留学生たちとも知り合うことができた。

- ④余暇の過ごし方(授業後や長期休暇など)について教えてください。

授業後は、主に授業の予習復習をしていた。また、友人と食事に行ったり、買い物に行ったりした。休日の多くは、研究の調査のためフィールドワークに出掛け、論文執筆に充てていた。長期休暇は、台北市内に出掛けたほか、その他の都市にも旅行に行ったりした。

E. 健康管理、保険、予防接種など

- ①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか。

睡眠と食事をしっかりとることに意識していた。気付かないうちに疲れがたまってしまうこともあるため、体を休められるときはリラックスし、好きな台湾料理を食べに行くことで気分転換をした。

- ②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えてください。

③留学するにあたって、予防接種は必要でしたか。

☒はい（種類：麻疹・風疹）

☐いいえ

F.住居、食事、マナーなどについて

①留学中の滞在先について教えてください。

形態	☒ 寮 ☐ 下宿 ☐ アパート ☐ ホームステイ ☐ その他（ ）
何人部屋	（ 2 ）人

②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

ルームメイトとの生活習慣については特に困ることはなかった。日本人とあまり変わらない感覚で過ごしていた。気になることがあれば、その都度伝え合った。例えば、電気料金を共同で支払うシステムだったため、お互いの認識の相違がないようしっかりと相談するように努めていた。寮の設備について困ったことがあれば、カウンターに問い合わせるとすぐ対応してもらえた。

部屋にはキッチンが無いため、周辺の飲食店や学食で食べることになる。寮の共同のキッチンで自炊している学生もいた。

学期が終了(テスト最終日)してから退寮日がとても近く、すぐに寮を出なければならず、荷造りや退寮の手続きが立て込み、非常に大変だった。

台北市内では、レンタルバイクが至る所にあるのでよく利用していた。台湾はバイクが多く、日本ほど歩行者優先ではないので、道を歩いたり、自転車に乗ったりする際は注意が必要である。

③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

持参するとよいもの

使い慣れている日本の生活用品、薬、除湿剤(一年を通して湿気が多い)

持参しなくてもよかったもの

だいたいの生活用品は現地で調達できる。日本製品も売っているが、値段は2倍ぐらい。

④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

台湾大学、国際事務處 OIA の web サイト

その他、インターネットで台湾大学の生活を紹介するサイトや、日本人留学生会のような団体が運営している SNS も多くあり、ビザの申請や大学関連の手続き(履修登録や居留証の申請など)の際に参考になった。

G.留学費用について

①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

月の生活費や食費をある程度決めておいて、それに合わせて工面するように心掛けた。デビットカードを使用して現地の ATM でお金をおろしていた。

②奨学金は受給していましたか。

☒はい（奨学金名： JASSO 奨学金 支給額： 月 8 万円）

☐いいえ

③差し支えない範囲で留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変えてください。

内容	金額	備考
渡航費	約 80000	往復、渡航支援金
保険代	約 140000	
予防接種・ビザ代	約 50000	
住居費	約 28000/月	
食費	約 50000/月	
教科書代	約 10000	国際生華語のテキスト、前期後期分

H.今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

☒進学

☐就職

☐その他（ ）

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

今後は博士課程に進学する予定です。

③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報をお願いします。

I.留学を終えて感じること

①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

自分の研究とフィールドにじっくりと向き合う機会になったと感じています。特に、留学中は、大学の授業と研究の両立が難しく、満身創痍になりかけることもありました。講義や調査においては、外国語でうまく意見を伝えられないもどかしさ、コミュニケーションが取れないことの無力さを痛感しました。また、フィールドワークでは、現地の人たちとのネットワーク、関係性の構築に苦労を要しました。ですが、十分でなくても今の力でできるところまで挑戦するという気持ちで取り組んでみました。大学では、研究分野の近い先生に、直接お話を伺いアドバイスをいただく機会を設け、フィールドワークで、何度も調査地に足を運び、調査対象者の方々から話を聞けるようになり、少しずつではありましたが、自分の研究活動の基盤が築かれつつあるように感じます。研究の面では、実際に現地でやってみないと分からないことも多く、予定通り進まないことがほとんどでした。留学前に思い描いた成果までは至らなかったものの、自分の足で培った人脈と経験は、今後の研究活動に活かされるものだと思います。留学を支えてくれた方々やご縁に感謝します。

②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか。

物事を多角的に考える視点を養うことができたと思います。学部の時にも台湾に滞在したことがありましたが、当時とはまた違う視点で台湾をみることができたのではないかと思います。台湾は、現在「多様性」や「寛容さ」、「親日」としても知られていますが、今回の留学を通じて、そうした事象の背景にある歴史や人々の価値観に深く触れ、一言では表すことのできない複雑で曖昧な現代台湾の実情を垣間見ることができたと感じます。

③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

異国の地で、異文化の中に身を置いて生活することは、その土地の言語や文化を学ぶだけでなく、自分自身や日本について見つめ直す機会でもありました。日本との深い関わりをもち、多様な地域から人が集まる台湾であればなおさら、様々な気付きを得られるかもしれません。選択肢があるのなら、台湾に訪れてみてください。そして、台湾の「人情味」を体験してください。

◆自由記述欄◆

渡航先の大学や留学の様子がわかる写真（メール添付でも可）を下記へ、ぜひ共有してください。報告書は Web サイトや印刷物として公開するため、被写体の人物へ使用についてあらかじめ承諾を得てください。添付された写真は、すべて被写体の人物から公開承諾を得たと判断し、海外留学室の Web サイトや印刷物へ使用します。

↓↓↓

キャンパス



以上